

医師や看護師に見送られ、笑顔を浮かべ退院する女性（右から2人目）＝松江市上乃木5丁目、松江医療センター



95歳女性 肺がん手術

松江市内の95歳の女性が、国立病院機構「松江医療センター」（松江市上乃木5丁目）で、肺がんの腫瘍を取り除く胸腔鏡手術を受け11日、無事に退院した。90歳を超える肺がんの手術は全国でも珍しいといいい、胸の痛みが消えた女性は「長生きしたい」と元気な足取りで病院を後にした。

女性は3月中旬に胸の痛みを訴え、同センターで精密検査を受けるために入

術後8日で退院

院。初期の肺がんであることが分かった。

3日に手術し、術後の合併症もなく、順調な回復で退院の日を迎えた女性は、同センターが選択したのは、胸腔鏡手術。肋骨の間には、胸腔鏡の小さな穴を開け、数カ所小さな穴を開け、カメラや自動縫合器を入れ、モニターを見ながら腫瘍を取り除く。開胸手術より負担が少なく、1992年から実施する同センターの症例数は2千例を超えている。

主治医の足立洋心医師や、看護師らの見送りを受け、周辺の桜と同様、笑顔も満開。しばらく休んでいた庭での草取りや雑巾掛けを楽しみに、「110歳まで長生きしたい」と家路に就いた。

松江
胸痛消え「長生きしたい」